

2026年
9月号

職場内で掲示・回覧を
お願いします。

健康だより



令和8年度 事業主・加入者のみなさまへ 被扶養者資格再確認のご協力のお願い

協会けんぽでは、保険給付の適正化を目的に、健康保険法施行規則第50条に基づき、健康保険の被扶養者となっている方が、現在もその状況にあるかを確認させていただくため、被扶養者資格の再確認を実施しております。

被扶養者資格の再確認は、被扶養者の方の現況確認だけではなく、加入者のみなさまの保険料負担の軽減につながる大切な確認となりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。



令和8年度の実施概要

実施方法

協会けんぽより事業所さまへ「被扶養者状況リスト」をお送りいたしますので、被扶養者資格をご確認いただき、同封の返信用封筒にてご提出いただきますようお願いいたします。

確認の対象となる方 ↓以下のいずれかに該当する被扶養者

- 1 健康保険の資格が重複している可能性が高い方
- 2 同居が扶養認定の要件となっている続柄の方のうち、被保険者と別居している可能性が高い方
- 3 令和7年中の課税収入額が130万円(60歳以上は180万円、19歳以上23歳未満かつ配偶者でない場合は年間収入が150万円)の金額を超過している方(18歳未満の方や直近で認定された方を除く)

※上記に該当する被扶養者がいない場合は、被扶養者状況リストはお送りいたしません。

送付時期 ▶ 令和8年10月下旬から11月中旬(予定)にかけて順次送付いたします。

提出期限 ▶ 令和8年12月11日(金)

扶養解除となる被扶養者の方がいる場合

確認の結果、扶養解除となる場合は、被扶養者状況リストと被扶養者異動届のご提出をお願いいたします。

扶養解除の迅速化のため、被扶養者異動届は可能な限り電子申請により、日本年金機構へお届けください。

なお、電子申請によるお届けが難しい場合は、被扶養者状況リストに同封の被扶養者調書兼異動届を協会けんぽへご提出をお願いいたします。



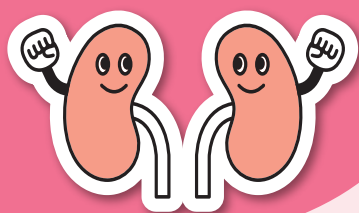
令和7年度の実績

被扶養者の解除
となった方

▶ 約18.8万人

被扶養者の解除により見込まれる
前期高齢者納付金の負担軽減額

▶ 約6億円



慢性腎臓病(CKD)予防対策を実施しています

慢性腎臓病(CKD)とは、慢性的にたんぱく尿があるなど、腎臓機能が低下した状態をいいます。

協会けんぽ奈良支部では、重症化予防対策の一環として、CKDが疑われる方に、医療機関への受診をお勧めするご案内をお送りしています。

また、奈良市医師会と連携して、糖尿病の進行により腎臓の機能低下が進んでいる方を対象に、かかりつけ医の指示のもと、腎臓を守る生活を送るためのアドバイスを行っています。

県内の各市町村とも連携して、講演会等を開催しておりますので、ご案内が届きましたらぜひご参加ください。

詳しくはこちら →



協会けんぽ 2025(令和7)年度 決算(見込み)のお知らせ



2025年度の決算(見込み)の概要

2025年度の決算は収入が12兆3,406億円、支出が11兆6,611億円、収支差は前年度から209億円増加し、6,795億円となりました。

保険料収入は、賃上げや被保険者数の増加により前年度比4,057億円の増加となりました。保険給付費は加入者1人当たり保険給付費が増加した影響で前年度比2,818億円の増加となっています。また、拠出金等は後期高齢者支援金が増加した影響で前年度比1,634億円の増加となりました。

※詳しくは、協会けんぽのホームページをご覧ください。

■ 2025年度決算(見込み) | 医療分 (単位: 億円)

収入	保険料収入	110,546 (+4,057)
	国庫補助等	12,383 (+693)
	その他	477 (+132)
	計	123,406 (+4,881)

支出	保険給付費	75,369 (+2,818)
	拠出金等	37,829 (+1,634)
	その他	3,413 (+220)
	計	116,611 (+4,672)

単年度収支差	6,795 (+209)
--------	--------------

※()内は、前年度比

※支出の「その他」は下図の「健診・保健指導経費」「協会事務費」「その他の支出」の合計

保険給付費 64.6%

協会けんぽが医療機関に支払う費用や、傷病手当金等の支払いに要する費用

高齢者医療への 拠出金等 32.4%

高齢者の皆さまの医療費の一部を現役世代が負担しています。

健診・保健指導経費 1.5%

協会事務費 1.0%

その他の支出 0.5%

支出
約
11.7
兆円

保険料収入 89.6%

被保険者・事業主の皆さまに納めていただいている保険料

収入
約
12.3
兆円

国からの補助金 10.0%

その他の収入 0.4%

Q 2025年度の決算は黒字でしたが、協会けんぽの財政は今後どのような見通しなのでしょうか？

- A. 協会けんぽの財政は、当面、賃上げ等により保険料の増加が見込まれるものの、
- 現在の不安定な世界情勢が我が国の経済社会に及ぼす影響が不透明であり、これまでのような保険料収入の増加が中長期的に継続するか予測が難しいこと
 - 協会けんぽ加入者の平均年齢の上昇や医療の高度化等により保険給付費の継続的な増加が見込まれること
 - 団塊の世代がすべて後期高齢者になったことにより後期高齢者支援金の中長期的に高い負担額のまま推移することが見込まれること

等に留意が必要と考えています。

また、医療費については、物価や賃金、人手不足等の医療機関等を取りまく環境の変化に対応するため、2026(令和8)年度診療報酬改定において、診療報酬(本体部分)の改定率が3.09%(2026年度: +2.41%、2027年度: +3.77%)と高い伸び率とされ、2026年6月以降の医療費に反映されることなどから、今後の動向を注視する必要があると考えています。

※2026年度は平均保険料率を10.0%から9.9%に引き下げたほか、国から交付される国庫補助が2026年度から3年間減額されることとなっています。